

初日の出のように、明るい年になればいいですね



今年の初日の出  
素晴らしいお天気で  
新年を迎えることができました

## CONTENTS

- 一般質問（6人）
- 各常任委員会Q&A／条例改正
- 行政視察研修
- 編集後記



ビッキーと門松は、パノラマ孔園の  
上り坂にありました

ふちかみまゐる  
 議員 淵上正昭



# 将来を見据えた農業政策等について

**町長** 来年度以降は基本的な町の考え方にに基づき、色々な事業を結びつけて、それぞれに取り組んでいきたい

**議員** 令和3年に本町の農業従事者等に対し、「農業の将来に関するアンケート」が取られた。その結果を踏まえ、本町の農業政策をどのように取り組んでいるか、また、取り組んでいくつもりか。アンケートを踏まえた町の課題として、今後、離農する農地を誰が担っていくのか。

**地域振興課長** 現在、主力として地域の営農を守っている世代の離農が進むと想定し、これに備える体制づくりとして、大規模農家、法人等と集落営農が連携し、離農者を力バールしていく取り組みを進めていく。

**議員** 離農する農地の受皿となる農家をどうやって増やすか。

**地域振興課長** 担い手の人数が減る中、町の農地面積をこなしていくには、効率的な営

農が必要であり、①畦畔除去による作業の効率化、②AIやドローンを活用したスマート農業で労力軽減、効率化を図り、国、県、町の支援を取り入れながら大規模農家、法人が仕事をしやすい形を追求し、収益を高めるため、農産物のふるさと納税への出品にも力を入れ、儲ける農業を確立する。

**議員** 中山間地域を誰が担っていくのか。

**地域振興課長** 中山間地域は掛水が多いことから、水路からの用水をあまり必要としない施設園芸、果樹の作付けを推進し、新規就農者や農業法人の誘致につなげたい。また、県補助事業には中山間地域に有利な機械補助制度がある。その活用を推進し、中山間地域を大規模農家や法人が担う取り組みを進めてい

く。今後、アンケートの結果を踏まえ、次の5つの方針を計画的に進める。

一、離農者の農地の貸出先である担い手（個人・法人）で連絡会等を設置し、地区内（例えば大字単位）の農地について話し合いができる環境づくり。

二、農業機械導入に係る国・県の支援事業の活用強化。

三、畦畔除去による水田の大区画化で作業の効率化を図る。

四、AIやドローンを活用したスマート農業の導入による労力軽減。

五、新規就農者を確保するため、園芸や果樹栽培の団地化の推進。

**議員** 農業委員会組織の新たな3カ年運動「地域の農地を生かし、持続可能な農業・農村を創る全国運動」が本年4月1日から始まっている。

新運動の柱は、①地域の農地利用の再編の検討と対応方針の策定。②継続的に保全すべき農地の維持・管理。③農地利用最適化活動の推進の3本柱となっている。

このことを踏まえ、地域の実情に応じた守るべき農地の範囲を決め、

同時にどうすれば将来にわたってその農地を維持できるか、関係機関団体と一緒に考えてもらいたい。

**町長** 来年度以降は基本的な町の考え方に基づいて色々な事業を結びつけて、それぞれに取り組んでいきたい。

10年後に農業を続けていますか？（町全体）

大字	回答者 平均年齢	やめている (%)	続けている (%)	わからない (%)
上小田	66.3	35	49	16
下小田	60.9	26	66	8
山口	65.4	36	60	4
八町	66.4	38	56	5
惣領分	64.9	26	71	3
佐留志	64.6	29	69	2
平均	64.8	33	61	6
地別	回答者 平均年齢	やめている (%)	続けている (%)	わからない (%)
平坦	64.4	31	65	4
中山間	66.1	39	49	12
平均	64.8	33	61	6

農業の将来に関するアンケート

石津 圭太  
議員



## 屋外でのマスクを非着用にできないのか

**町長** 子どもたちの健康や成長への影響を考えれば、マスクをつけないようにしてあげることが大人の役目

**こども教育課長** 先生方の指導は、屋外でのマスクは不要と指導している。教育委員会としても屋外においてマスクは必要ないと引き続き指導していく。

**教育長** 屋外でのマスクは不要と指導はしているが、子どもたちが一律に外せている状態

**議員** 文部科学省では今年の5月に熱中症対策のため登下校中や運動時はマスクを外すように各自治体の教育委員会に通知されたが。

**こども教育課長** 小学校、中学校には、マスクをつけていることで熱中症の症状があった場合すぐに外すようにと指導している。

**議員** 先日、開催された小学校の運動会とドッジビー大会で屋外でもマスクを着用したまま競技に参加している子どもたちを見てどう思ったか。

**マスクの着用について**  
マスクについては、場面に応じた適切な着脱をお願いします。

**屋外** 季節を問わず、マスク着用は原則不要です。

**屋内** 距離が確保でき会話をほとんど行わない場合をのぞき、マスクの着用をお願いします。

ではない。

マスクを着用できない児童、生徒もいる。担任、学校長にも依頼をしているので、実態に応じて把握できるように取り組んでいきたい。

**町長** 子ども達の健康や成長への影響を考えればマスクをつけられないようにしてあげることが大人の役目。場合によっては、ノーゲーム、ノーテレビゲームのようにノーマスクデーみたいなものを学校で設定し、そういう場面を作ってあげることが必要と思う。

### 学校給食の黙食は

**こども教育課長** 感染状況が穏やかになれば徐々に緩和していきたい

**議員** 小学校では黙食を推奨されていたが、現在も推奨されているのか。

**こども教育課長** 令和2年5月22日に文部科学省から示されている衛生管理マニュアルにおいて全国的にスタートしたが、11月29日から感染状況を踏まえつつ、座席の配置の工夫、適切な換気の確保

等を講じたうえで児童、生徒等の会話は可能となっている。

中学校は、3年生は受験を控えていることから、今までどおりの指導をしている。

**教育長** 日常の会話ができる状況が給食の時間の本来の在り方だと思っている。

**議員** 校内の感染症対策と換気の頻度は。

**こども教育課長** 休み時間ごとに教室の換気と休み時間が終わわり、教室に入る際に手指消毒を行っている。

**議員** 学校では飲食店以上に手指消毒と換気を徹底されている。私たちは大人は飲食店で対

面で会食をしている。食事の時間はコミュニケーションをとるのにとっても貴重な時間。大人は対面で会食をしているのに、子どもたちには禁止するのは矛盾しているのではないか。

**こども教育課長** 大人は対面でマスク非着用のまま会食をしているのに、子どもたちが給食を対面で食べられないのは相反する状況だと思う。今後、感染状況が穏やかになれば学校現場とも話をし、徐々に緩和していきたい。

**教育長** 私自身も給食の時間の在り方はコミュニケーションの場でもあり、本来楽しいものだと思う。学校長とも協議しながら、子どもたちが日常生活に戻れるよう働きかけを続けていく。

# 中学生の江北町の未来計画を受けて



江頭義彦 議員

**町長** 町の考え方を年度内に生徒たちに示したい



町の未来計画を提案した江北中学生

**議員** 今年6月20日に佐賀新聞に掲載された江北中学校3年生の生徒16名の「こうほくをこうふくに」の提案について、町の今後の対応はどのようになっているのか。

**町長** 提案をいただき、是非、項目ごとに町の考え方を、やる、やらないだけでなく、執行部から考えを整理して、年度内に生徒たちに示したいと考えて

いる。また、先般行われた中学校の文化発表会では、1・2年生も未来計画を作成しており、中学1年生に来庁いただき、未来計画の提案も受けた。こちらについても3年生の提案と合わせて、町でしっかり吟味してプレゼン等でお返ししたい。子どもたちの提案でどれが取り組めるか等をこれから考えて、できれば具

体化させたい。子どもたちの意見を反映することは、これからのまちづくりの中の標準装備になるべきだと思っ

**議員** 緊急時の排水や浸水時の早期排水のた



ライフジャケット

められている。また、先般行われた中学校の文化発表会では、1・2年生も未来計画を作成しており、中学1年生に来庁いただき、未来計画の提案も受けた。こちらについても3年生の提案と合わせて、町でしっかり吟味してプレゼン等でお返ししたい。子どもたちの提案でどれが取り組めるか等をこれから考えて、できれば具

体化させたい。子どもたちの意見を反映することは、これからのまちづくりの中の標準装備になるべきだと思っ

**議員** 町は、六角川と牛津川の合流点に位置し、浸水時は水位が増す地域があるため、高齢者や幼児に対して、ライフジャケットの補助ができないか。

**町長** 導入前に色んな検証が必要

## 水害に備えポンプ車の導入を

めに、わが町にも排水ポンプ車の導入ができないか。



八町北区付近の想定浸水深

**基盤整備課長** 佐賀県は、排水ポンプ車が5台、大町町は移動式の排水ポンプが2台、武雄市でも移動式の排水ポンプが2台購入されている。まだ、導入されていない市町では、設置場所がない、設置場所が狭い、内水被害のため放流先がない、浸水箇所に設置した場合の給油の問題等が挙げ

られており、検証しておく必要がある。

**議員** 排水ポンプ車は、人命、財産をはじめ、農作物への被害も最小限に解消できる。限りなく利用価値が広がると思われるが。

**町長** 町でも総合排水計画を策定して、現在、これに基づいて順次取り組みを進めており、今の時点で排水ポンプ車を導入するという判断の確証を得るところまでに至っていない。

## 排水ポンプ車



令和3年8月の大雨（佐賀県）

昨年、武雄市に派遣された排水ポンプ車

井上敏文  
議員



## 町内の開発・整備の均衡をどう図っていくか

町長 県道多久・江北線バイパスの整備計画により西部地区の浮揚のきっかけになればと思う

町長 この路線については、事業化の方向で進んでいると聞いており、西部地区の浮揚のきっかけになればと思う。道路の線形が明らかになるのに合わせ町

議 駅南地区は住宅開発が進み都市化が進んでいるのに対し、町西部地区では高齢者が多く、過疎化が進んでいる。この過疎化が進む西部地区の振興策として、県の事業で国道34号線から門前地区につながる県道多久・江北線バイパスの事業計画がある。これについて、令和3年12月議会で「県道多久・江北線バイパス整備に伴う地域振興策は」と質問したのに対し、町長は「乱開発を防ぐためにも、土地利用について一定の方針を出す」と答弁している。その後、どのように検討されたのか。

議 駅南地区は住宅開発が進み都市化が進んでいるのに対し、町西部地区では高齢者が多く、過疎化が進んでいる。この過疎化が進む西部地区の振興策として、県の事業で国道34号線から門前地区につながる県道多久・江北線バイパスの事業計画がある。これについて、令和3年12月議会で「県道多久・江北線バイパス整備に伴う地域振興策は」と質問したのに対し、町長は「乱開発を防ぐためにも、土地利用について一定の方針を出す」と答弁している。その後、どのように検討されたのか。

議 駅南地区は住宅開発が進み都市化が進んでいるのに対し、町西部地区では高齢者が多く、過疎化が進んでいる。この過疎化が進む西部地区の振興策として、県の事業で国道34号線から門前地区につながる県道多久・江北線バイパスの事業計画がある。これについて、令和3年12月議会で「県道多久・江北線バイパス整備に伴う地域振興策は」と質問したのに対し、町長は「乱開発を防ぐためにも、土地利用について一定の方針を出す」と答弁している。その後、どのように検討されたのか。



町西部地区の浮揚が期待される  
県道多久・江北線バイパス事業計画

議 町には土地開発公社を設立されているがどのような活用をされているのか。

議 町には土地開発公社を設立されているがどのような活用をされているのか。

議 町には土地開発公社を設立されているがどのような活用をされているのか。

議 町には土地開発公社を設立されているがどのような活用をされているのか。

町長 県道多久・江北線の事業に併せて町内の土地利用についてはしっかりと方針を出していきたい。

議 平成21年に第2次国土利用計画を策定後、長年見直しが行われていない。土地利用計画の改訂版を策定すべきと考えるが。

議 平成21年に第2次国土利用計画を策定後、長年見直しが行われていない。土地利用計画の改訂版を策定すべきと考えるが。

議 平成21年に第2次国土利用計画を策定後、長年見直しが行われていない。土地利用計画の改訂版を策定すべきと考えるが。

議 駅南地区は住宅開発が進み都市化が進んでいるのに対し、町西部地区では高齢者が多く、過疎化が進んでいる。この過疎化が進む西部地区の振興策として、県の事業で国道34号線から門前地区につながる県道多久・江北線バイパスの事業計画がある。これについて、令和3年12月議会で「県道多久・江北線バイパス整備に伴う地域振興策は」と質問したのに対し、町長は「乱開発を防ぐためにも、土地利用について一定の方針を出す」と答弁している。その後、どのように検討されたのか。

議 駅南地区は住宅開発が進み都市化が進んでいるのに対し、町西部地区では高齢者が多く、過疎化が進んでいる。この過疎化が進む西部地区の振興策として、県の事業で国道34号線から門前地区につながる県道多久・江北線バイパスの事業計画がある。これについて、令和3年12月議会で「県道多久・江北線バイパス整備に伴う地域振興策は」と質問したのに対し、町長は「乱開発を防ぐためにも、土地利用について一定の方針を出す」と答弁している。その後、どのように検討されたのか。

進を図る方策として町主導により空き家・空き地の利用についてホームページ等を利用しながら積極的に取り組んでみては。

町長 町内の民間事業者と連携し、住宅地等の紹介について、そのつなぎをやっていく。

### 江北町土地利用計画の策定を

総務政策課長 土地利用については、全体の動向を注視して進めていく

三古紀美子  
議員



## 鳴江ポンプの運転時間等について

**町長** きちんと整理して文書で返し、その上でやり取りがあれば、やり取りさせてもらう

**議員** 地区要望に対する平成30年の回答を実施すれば鳴江排水機を停止しても5号幹線水路より正徳側へは流れ込まないと思うが、令和3年8月豪雨では、今まででなかった箇所まで道を越える被害が発生した。2度の豪雨の後、回答内容に基づいた現場検証はなされたか。

**基盤整備課長** ゲート調整は行政が間に入り、関係区の役員に地区間の調整をお願いしている。町の取り組みは総合排水計画に基づき事前排水を実施している。  
**町長** 現状を整理して文書で回答し、質疑は適宜受け付けたい。

**議員** 鳴江ポンプが停止してから民家に水が入っている。行政がやると言わない限り私達がやって下さいと幾ら言っても同じ。

**基盤整備課長** 浸水被害は羽佐間水路からの

越水、隣接地域からの流量が主な原因と考えていた。要因解決に向け、各種調整や対策を国、小城市と協議している。5号幹線水路から正徳地区方面に延びている水路の断面は小さくて実際にあふれた状況は分かった。

令和3年の大雨の時、水路から水があふれ、道路を越して田に水が入ったとの話も聞いた。新たな要因として排水対策連絡会で問題提起し、水路の対策、改善策の協議をしていく。

**議員** 5号幹線水路を改修しない限り問題は解決しない。住民が困っている事は優先的に率先して考えてほしい。

**町長** 具体的に構造を教えて頂いて取り組みをしたい。

**議員** 武雄河川事務所は、ポンプの稼働延長を検討することだが、いつ実現するのか。

**基盤整備課長** 具体的には得ていない。

**町長** 満神ポンプ排水場の運転時間は小城市と連携し六角川、牛津川流域の全市町にも了解を取り延長して貰うようになった。平成30年の回答の内容と違うため文書で回答し、それを基にやり取りができればと思っている。

### あいさつ運動の取り組みを

**教育長** 両校長共挨拶の重要性は認識している。きちんとして出来るように取り組んでいく

**議員** 交通安全母の会で毎朝信号で挨拶運動を兼ねて交通安全を見守っているが、元気に挨拶できる子ども、友達と話しながら素通りしてしまふ子ども、自転車を押しながら会話し、挨拶しても返ってこない子ども。以前挨拶運動が実施されていた頃は、元気



(5号幹線水路末端部より3号幹線水路への取り入れ口)

### 子ども達の安全を願って

**こども教育課長**  
白石地区防犯協会の本年度予算で作成可能

**議員** 9月議会で小旗の導入について、PTA、育友会と早急に話し合い、ぜひ設置したいとの事だったが。

**こども教育課長** 子ども110番の131カ所を把握、12月7日に150本発注済み。12月末までに整理し、設置個所が確認され次第配布する。

**議員** 小旗の大きさは、町のキャラクター「ビッキー」を旗に入れることはできるか。

**こども教育課長** 大きさは、約30センチ真四角位。協会の予算なので、協会が決めた子どもの絵がついた旗になる。

池田和幸  
いけだかずゆき

議員



# 大丈夫か、役場職員の管理・ケアは

**町長** 仕事のやり方、考え方、発想の仕方を伝え、具体的に見せ、教えることも大事な務め

**議員** 職員の健康管理が気になるところだが、今年度、病気休暇及び休職している職員はいらぬのか。

**総務政策課長** 病気休暇は4名で、うち1名が休職。県内の状況は、昨年度に休職した職員は、137名で約24%になる。町では上峰町と玄海町の各5名が多である。

**議員** 過去5年間の状況は。

年度	病気休暇	うち休職
平成29	13名	2名
平成30	10名	0名
令和元	9名	1名
令和2	4名	1名
令和3	7名	2名

過去5年間の状況 (病気休暇・インフルエンザ等含む)

**議員** ストレスチェックの最近の状況は。

**総務政策課長** 今年度

の受検者は151名で、13名(86%)が高ストレスであり、全国では約14・2%の方が高ストレスの状況にある。

**議員** 頑張っているのに評価されない、成果が出ないという声もあり、評価されず、仕事にやりがいを持っていないことが、悩みの原因というのではないのか。

**町長** 上司は単純に指示をするだけでなく、仕事のやり方、考え方、発想の仕方を伝えてあげること、また、具体的にさせる、教えてあげることも大事な務めだと思ふ。打合せの中ではそういうことはできている。

**議員** 職員定数は適正なのか。

**総務政策課長** 条例定数120名に対して、一般職102名、再任用職員7名、会計年度任用職員はフル・パートタイムを含めて56名

の合計165名で、適正と考えている。

**議員** 令和5年度の新規採用職員の募集はない。現状の役場組織でのマンパワーは十分だと判断されているのか。

部屋を設けてあるが、職員のストレスや心の悩みが見えないのでは。

**町長** 課長は頭脳労働者であり、色々職員の話聞いて、機動的に対応している。

**議員** 職員の言葉に耳を傾けて頂きたいが。

**町長** 耳を傾けていないことはない。

## 菖蒲谷溜池への土砂流入への対応は

**町長** 町として、しっかり申し入れをしていく必要がある。

**議員** 岳地区にある菖蒲谷溜池の土砂流入についての県の見解及び対応は。

**議員** 水質検査は今回県で実施されたが、今後同様ことが発生した場合、町で予算化できるのか。

**町民生活課長** 県は流入した土砂は産業廃棄物でなく、有価物の再生材であることから土砂を流入させた産廃業者が撤去すべきとの見解。県が業者に土砂が流入しないよう整備を行うように指導した。

**町民生活課長** 薬品漏れ等水質汚濁が発した場合は想定した予算で対応する。

**議員** 流出した土砂の撤去は、県に処理してもらったのが当然ではないか。



土砂流入の菖蒲谷溜池

**町民生活課長** 法律の対象でなく、行政代行の対象にもならない。

**議員** 課長の答弁では納得できない。県が対応しないのなら、誰がやるのか。

**町民生活課長** 流入した土砂の排除請求権は、町にもあり、流入させた産廃業者に撤去を促すよう話をしていく。

**町長** 町として、しっかり申し入れをしていく必要がある。主体は町であり、やるべきことが色々あると思ふ。

総務常任委員会

**問** 今後、定年が65歳まで延長されると、新規採用が減り、職員の新規採用が減り、職員の問題がでてくるのではないかと心配しています。

**行政係長** 今後、定年

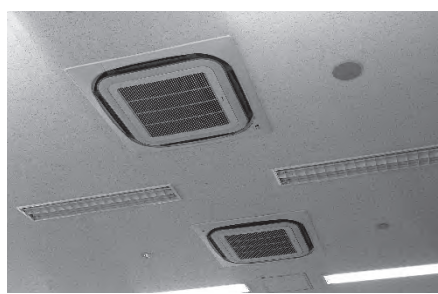
年齢延長に伴い、定員管理も見直していく必要があると考えています。年齢構成等も考え、採用計画を考えていく。また、今後職員の出向先の状況が確定した段階で定員管理計画を立て直したい。

(段階的引上げ期間中の生年別対象職員の定年年度と暫定再任用対象期間)

原則定年齢	年度	職員の生年					
		S37年生	S38年生	S39年生	S40年生	S41年生	S42年生
60歳	R4	60歳	59歳	58歳	57歳	56歳	55歳
61歳	R5	↑ (暫定再任用)	60歳	59歳	58歳	57歳	56歳
	R6		61歳	60歳	59歳	58歳	57歳
62歳	R7	↑	↑	61歳	60歳	59歳	58歳
	R8			62歳	61歳	60歳	59歳
63歳	R9	↓ (65)	↓	↓	62歳	61歳	60歳
	R10				(65)	63歳	62歳
64歳	R11	↓	↓	↓	↓	63歳	62歳
	R12					(65)	64歳
65歳	R13	↓	↓	↓	↓	↓	64歳
	R14						(65)

**問** 町内各施設で不具合が生じている。利用している町民、子どもたちのためにも予算を確保し、修繕等対応をお願いしたいが。

**子ども教育課長** 町内の社会体育施設の修繕については、優先順位をつけ、年次計画を作成している。計画に基づき、修繕等に要する予算を毎年適宜見直しながら計上している。町内施設は子ども老朽化が進んでいるため今後、予算確保の協議をしながら対応したい。



修理が必要なエアコン(つるぎ)

産業厚生常任委員会

**問** 町の新型コロナウィルスワクチン接種について、現在の状況は、健康福祉課長 三回目

までの各年代の接種状況については、65歳以上が93・3%、60代も約90%まで伸びている。しかし、20代以下については50%に届かない状況。また、5歳から11歳の初回接種率は17・7%。6か月から4歳までについても接種を開始しているが、1%程度の接種率である。

**問** ふるさと応援寄附金の返礼品として「くるり」のCD、DVD等を作成されるが、返礼品として認められているものなのか。また、どのくらい作成予定か。

**地域振興課長** 総務省が定める基準に該当する返礼品であり、同じような返礼品を登録している自治体も多い。今回、2000セット作成を予定している。

**問** 今年度ふるさと応援寄附金収入10億円を目標としているが、現在の状況は、

**地域振興課長** 12月14日現在で約5億9千2百万円。昨年実績から推定し、目標を達成できる見込み。

**問** 被保険者療養給付費等を大幅に増額補正するが、予測より医療機関を受診する人が増えたということか。

**健康福祉課長** 今年度の療養件数は、前年よりも257件少なくなっているが、一件あたりの療養費が10万円以上かかる診療の増加。また療養費が、50万円〜250万円以上かかるといった高額な診療を受ける人が増加している。以上の要因から大幅な予算の増額補正が必要となった。

条例改正

一、地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例 (賛成多数で採択)

一、江北町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例 (全会一致で採択)

議長交際費の公表

議長が町議会を代表し、対外活動等のために支出した交際費を公表します。

○交際費支出状況○ (令和4年10月)

12月支出) 対象期間において、議長交際費の支出はありませんでした。



総務・産業厚生常任委員会合同行政視察研修報告  
11月16日～18日

◆和歌山県湯浅町  
ふるさと納税の  
取り組み

湯浅町は、面積・人口とも江北町とほぼ同規模の町であり、醤油醸造の発祥の地である。紀伊半島の西岸に位置し、海の幸が豊富な港町で、「有田みかん」に代表される柑橘類の生産が盛んな町である。湯浅町のふるさと納税寄附額は平成26年度、約3千万円であったが平成30年度には約50億円と飛躍的に伸び、昨年度の実績でも約33億円の寄附額となっている。現在は、ポータルサイトを25サイトに増やされており、今後増やす予定であるとのこと。また、取り組み



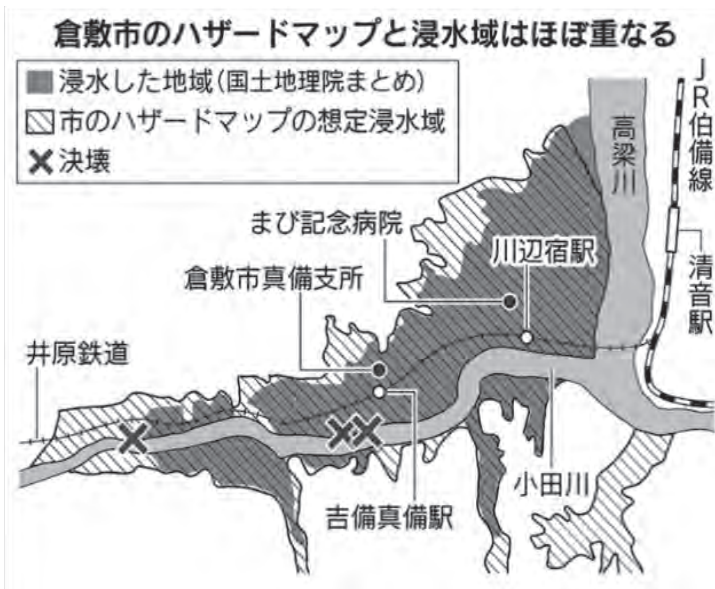
返礼品で人気のある有田みかん

としては、和歌山県内の24の市町と協定を結び、互いに返礼品を融通し合う「共通返礼品制度」を適用しているとの事である。

さらに、担当職員を増やすべきとの声で、現在、担当部署で職員5名、会計年度任用職員6名の11名と返礼品のみかんの繁忙期は、さらに派遣会社から6名の人員をお願いされている。

◆岡山県倉敷市  
豪雨災害からの  
復興

岡山県倉敷市真備町の災害復旧等についての説明では平成30年7月の集中豪雨で真備地区の1/4が冠水し、市街地では5m～6mが水没し、75名の方が命を落とされ、倉敷市はじまって以来の大災害となったとの事である。



倉敷市真備町の浸水被害状況

その豪雨災害に対してどのような災害対策を取られてきたかについて担当者から詳しい説明を受けた。被害地域は、地形及び2つの大きな河川（高梁川・小田川）が合流するところが、江北町（六角川・牛津川が合流）の状況とよく似ており、河川整備等の災害対策は参考になった。

倉敷市では、河川整備のハード面での対策のほか、ソフト面においても復興に向けて住民の災害に対する意識の高揚、災害に強い地域をつくるなどの検討会を立ち上げられている。今回の事例としては、避難情報が早めに発表されたにもかかわらず、実際には、それが避難行動に結びつかなかったことが課題であると言われていた。現在、倉敷市では住



倉敷市役所での合同視察研修

民避難、住民への情報提供や周知の在り方、住民による自主的な避難を促進するなどの検討がされており、地域防災の目指すべき社会として、住民は「自らの命は自らが守る」という意識を持つこと、また行政も「住民が適切な避難行動をとれるよう全力で支援する」等を指針として日々の業務を遂行しているとのことであり、大変参考になった。

# 忘れずにやってくる四季、 永遠に地球を守りましょう!

1カ月遅い梅雨入り、1カ月早い梅雨明け。大型化してきた台風と気象状況が異常という言葉が当たり前になってきた昨今。

今が良ければ良しという考え方でいいのでしょうか。いや、子や、孫と代々安心して生きていける環境を守っていくことが、我々に課せられた使命だと思います。

自然、いや地球を大切にしていくことが、私達が心身共に豊かな生活を続けていくことに繋がっていくと思います。

まだまだ我々を見捨てずに、すばらしい四季を与え続けている地球に感謝!



芙蓉の花



正徳区から昇る朝日



上惣区の花々の風景

大分県豊後高田市にある「川中不動尊」川の氾濫を治めるお不動さんとして今もお祀りされている。

我が町は牛津川と六角川の二つの川に挟まれている。水の心配が無くなりますように。

## 編集後記

1年中、コロナ、コロナの心配にどれだけの方が心を痛めたことか。その心配の年が過ぎ去ることを願い、今年こそは、良い年になればと願っています。

新しい年を皆様と共に迎え、元気に楽しく過ごせるように頑張つてまいります。

議会だよりは、町民の皆様方にわかり易い情報を報告できるように取り組んでいます。

(二五)

### 議会広報委員会

委員長 池田 和幸  
副委員長 三苫 紀美子

金丸 祐樹  
江頭 義彦  
石津 圭太